

令和5年度事業計画（案）

令和5年度の活動目標を次の通りとします。

- (1) 一般社団法人としての海事社会への寄与
- (2) 新規会員加入、登録会員会費納入促進等による会費収入の増加
- (3) 支部活動の活発化、若者の支部活動参画の促進
- (4) 学生、教職員との間に立った産学の橋渡し、母校並びに学生との関係強化
- (5) 組織の互助機能強化による会員の福利促進

第1. 事業関係

公益目的支出に計画している事業は、令和4年度と同様に（継1）船員・海事に関する調査研究、（継2）講演会の開催、（継3）海事の普及活動、の3つの継続事業です。

(1) 船員・海事に関する調査研究

従来から常設委員会である「海事問題調査委員会」を中心として、その時々海事社会の動きに合わせて、調査研究対象の課題を取り上げてきました。令和5年度も「海事問題調査委員会」を中心として、調査研究を行っていきます。

(2) 講演会の開催

講演会活動は、「公益目的支出計画」事業として位置付けており、令和5年度も従来通り重要な活動のひとつとして継続していきます。

(3) 海事の普及活動

東京海洋大学、神戸大学海洋政策科学部、独立行政法人海技教育機構、海洋会支部と連携を図りながら、広く一般公衆の海や船への理解と関心を高める活動を中心に、海事産業における次世代人材確保のための活動を積極的に行っていきます。

以下は、従来からの継続事業です。

- ① 重要文化財「明治丸」並びに「百周年記念資料館」一般公開への支援
- ② 神戸大学海洋政策科学部附属「海事博物館」一般公開への支援
- ③ 海洋会支部活動の一環として行われる関連イベントへの支援

(4) 会誌「海洋」の発行

会誌「海洋」は、年3回（4月号、7月号、1月号）発行します。

会誌「海洋」を関係先へ継続して贈呈していきます。

(5) 本部及び横浜会館の賃貸事業、収益事業

海事センタービル内の本部所有部屋および横浜会館で賃貸事業を行う。また、横浜会館で収益事業を行う。

(6) 会員の福利促進

会員の就職並びに転職については、インターネット版「求人情報提供サービス」をHPに構築し運営しています。会員の求人情報提供のサービスを行っていきます。

(7) 母校との交流強化並びに支援の継続

- ① 卒業時に優秀学生に「海洋会賞」を贈呈する。
- ② 学生の海事普及のための部活動、諸行事（学生祭）等を支援する。
- ③ 大学が計画する海外インターンシップへの支援、協力を行う。
- ④ 学生を対象とする海洋会主催セミナーを実施する。

- ⑤ 海技教育機構練習船が所蔵する「海洋会文庫」に図書を贈呈する。
- ⑥ 産官学の交流の橋渡しを行う。

第2. 会務関係

- (1) 社員総会、理事会、企画委員会、会務委員会、海事問題調査委員会、編集委員会等の開催
- (2) 会員入会環境の変化に対応したWEB版会員管理システムの機能向上
- (3) 会員に関する情報の整備と精度向上
- (4) ホームページからの発信と充実
- (5) 越中島キャンパス内に設置した「海洋会」掲示板を利活用し、教職員及び在学生に対する情報提供を図っていきます。

第3. 財務関係

- (1) 新入会会員確保の推進並びに会費未納会員の会費入金促進活動

新入会員を獲得するための活動を継続していきます。東京海洋大学海洋工学部の入学手続き並びにオリエンテーション時には、大学側に時間をいただいて准員の入会勧誘を実施します。既卒者である会費未納者への督促対策として、2023年1月号にレッドカード（会費を納入していただかなければ、2023年1月号の会誌が最後になります）、イエローカード（会費を納入していただかなければ、2024年1月号の会誌が最後になります）を同封して、注意喚起を行いました。令和5年度も同様に、会費未納者に対して会費納入対策を実施していきます。

また、会員管理システムの機能にある会員用WEBサービスシステムや郵便等を利用して、未納会費入金の促進活動を実施していきます。

- (2) 財務状況の改善

会員の高齢化、若者の会員数の減少が続いていく状況の中で、昨年度に続き、経費節減に重きをおいて予算を実行していきます。

当会の財務基盤の基本は会費収入です。東京海洋大学在学生准員加入者の准員会費納入促進活動を強化していきます。